

新年に当たって 新井会長年頭所感

明けましておめでとうございます

五ツ又自治会員の皆様におかれましては、ご健勝で穏やかな初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃から自治会活動に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます

さて 早いもので、私も会長をお受け致しまして間もなく三期6年を迎えようとしております。その間、理事会、総会のご賛同の下、自治会館の空調機の入替え、屋根の葺き替え、館内のLED化等を実施致しました。安心して使用できる会館になったのではないかと思います。さらに各種行事もほぼ予定通り実施させて頂き、住民の方々、世代間交流も含め、絆を深耕されたのではないかと思います。

然しながら、五ツ又地域も高齢化が進み、地区によっては理事の選出が難しくなっているところもあります。非常に悩ましい問題です。そうした問題点から自治会離れの声が聞こえてくることもあります。高齢化の解決策がなかなか見当たりません。地区割りの見直しも検討の一つかもしれませんが、当該地区の方々が恐縮したりもします。

昨今では地球温暖化による台風の大型化、竜巻、豪雨などが頻発し、この川越にないとは言えない状況にあります。そのような時に自治会の共助が必要になってきます。どうか既存の地区を大事にして消滅させないよう努力をして頂きたいと思います。私の切実なお願いです。

この五ツ又に住んでよかったと思える地区にみんなで一緒に構築してまいりましょう。私も「安全で安心して住める街・五ツ又」にするため、後3か月、頑張ってまいります。ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。



シラコバト賞をいただきました。

日頃、身近なところで、住みよい地域社会の実現のために、多くの方々が積極的な実践活動が続けています。彩の国コミュニティ協議会では、そうした活動を行う個人や団体へシラコバト賞を贈呈し、その活動と功績を顕彰しています。

平成27年度のシラコバト賞授賞式が平成27年11月14日（土）、県民の日に、さいたま市南区のさいたま文化センターで行われました。

川越自治会連合会からは、個人の部で10名、団体の部で4団体が受賞しました。この4団体の中に五ツ又防犯パトロール隊と五ツ又まつり保存会が入っています。

この2団体の活動はここで申し上げることもなく皆さんよくご存じのことですが、防犯パトロール隊は平均年齢75歳を過ぎた今も北小に通う児童たちが安全に通学できるように晴れる日も曇る日もさらに雨の日も、通学日には五ツ又交差点に立ち旗を振り続けています。

五ツ又自治会の数々の行事は TENT を張ったり櫓を組んだり、餅をついたり、大体が力仕事です。悲しいことに理事の多くは老齢です。力不足は否めません。この時現れるスーパーマンが「まつり保存会」です。



五ツ又地区を盛り上げるこれらの2団体の活動に心から感謝します。引き続き活動を継続していくことを願ってやみません。

グラウンドゴルフ和歌山国体 団体の部第5位

五ツ又だより52号で紹介の通り、第70回和歌山国体のグラウンドゴルフ競技に20区の野上定之さんが出場しました。

競技は平成27年9月19・20日、和歌山県すさみ町総合運動公園で開催されました。

埼玉県代表は7市1町から選ばれた男子・女子各5名の10名で男子の部にはわが川越市五ツ又の野上定之氏はその一人です。

県対抗のゲームですから、チーム数は47。その中で埼玉県は団体で堂々の5位入賞です。第1位は静岡県、第2位以降は長野県、石川県、千葉県、埼玉県でした。

打数合計は静岡県が570で、埼玉県は596でした。また個人の部でも深谷市の眞下辰男氏が6位入賞でした。

次年度は岩手県で開催です。さらなるスコアを目指していきましょう。



GG大会入賞者は想定外な結果に

五ツ又グラウンドゴルフ大会は平成26年11月15日（日）、南部公共広場で行われました。五ツ又の行事は、最近川越市の行事などとかち合うことが多々あり、今年の大会も同じ状況で、参加者は少なめでした。それでも、39名の参加者は熱い戦いを繰り広げました。

結果は一般の部の優勝が小野寺貞史さん、準優勝が伊藤和子さん、3位が金子 勝さん、クラブの部で優勝が三角房男さん、麻野武芳さん、栢森一二さんでした。

この入賞者のお名前を拝見してみると、例年とは違うことが見て取れます。ボウリング大会

でもそうでしたが、定連のお名前が見えないことです。そう新たに参加した方の入賞が多いということは、参加すればどなたでも入賞する可能性が高いということです。来年はぜひ。



振り込め詐欺は静かに迫ってます



川越警察の話ではこのところ川越市内で振り込め詐欺が横行しています。特に砂新田はターゲットになっている模様。そこで2月13日（土）午前午後合わせて3時間ほど、川越警察署員20名を動員して、砂新田5丁目内の状況を把握し、事件に対する意識の指導をすることになりました。調査対象は川越警察で案を作っているようです。全所帯を対象にしているわけではありません。

ただし警察官だけでは調査する方も受ける方も顔が知れませんかから不安です。そこで警官一人につき自治会役員、民生・児童委員がつきます。安心して

て対応ください。

五ツ又自主防災会 地域における防災活動の拠点

ホッテントット



南アフリカからナンビアにかけての地域に居住している民族がいます。名をコイコイ人（旧称ホッテントット）といいます。同じように生活している民族にサン人（旧称ブッシュマン）がいます。いずれもアフリカ最古の民族と言われています。彼らの総称は「コイサン人」です。何年か前に「コイサンマン」という映画がありましたから、ご記憶の方も多いかと。

彼らの生き方は、かなりユニークです。これからお話するのは今から50年前、私がハイティーンだったころ新聞に連載された、学術調査隊に随行した記者の記事です。今の彼らの生活状況は情報不足でわかりません。

コイサン人の社会は親族関係である40～50人規模の数家族の集合です。定住することではなくポータブルな植物を材料にした小さな小屋を作ります。

移動手段は徒歩です。食料は狩猟・採集により確保します。構成する家族の団体への依存度ですが、属する集合が気に食わなければ別れます。ただ1家族の能力では食料の確保が困難でしょうからまた集合することもあります。団体への離合集散はまったく任意です。なぜかという集団を取りまとめる長がいません。無頭社会といいます。職業・身分・地位などによる差別はありません。どう生きるかは1単位家族の自由です。互いに干渉することなく地域社会という世間を気にすることがない全くの自由人なのです。

この生活の中でとても悲劇的な光景があります。私たちがそう思うだけで、彼らにとっては道理なのでしょう。定住せず農業しないのですから、食料を得るには移動が不可欠です。移動手段は徒歩ですからもし歩けなくなったらどうするか。例えば歩けなくなった老人がいても、その場にとどまることはしません。とどまると家族全体に生存の危機を招きます。老人に3日分の食料をわたし、道端に置きます。その道を再び訪れるかどうかはまったくわかりません。老人はその時に自分の人生の終末を意識することになります。生存しつつ自由な個人生活を維持するためには、選択の余地のない方策なのでしょう。

最近地域崩壊という言葉を目にしてこの記事を読み出しました。崩壊というと否定的に聞こえますが、近年のこの動きはどう評価すべきでしょう。いま流行の「自由人として生きたいのだから世間は邪魔」の考え方で、みんなが地域社会より個人の自由を優先することを第1義とするならば地域が崩壊するのは当然で、ある意味「人社会の進歩」かもしれません。私たちは50年かけてコイサン人の社会システムによりやく追いついたのです。

地域社会などに属さなくても現代人には貨幣という道具があるからまったくの孤独にはならない。生活は安全に維持されるだろう。という考え方があります。でも限りある資産でいつまで続けられるのか。金で人を動かすのは結構コストがかかります。有料老人ホームの価格を見ればわかるでしょう。

比較的安価な方策で情で人を動かすという方法もあります。ただし個人情報の漏洩と近所付き合いという手間はかかりますけどね。

個人の腕力と資力と話力でどこまで個人を守れるのでしょうか。コイサン人は近代、ナチスドイツ軍の侵略を受け、狭い地域に追い込まれ人口が半減する大虐殺事件（餓死）に遭遇しました。大軍に小さな家族というグループでは抗えようもなかったでしょう。



井戸端の友 あいさつ代わりの 話のネタ

はけ

毎度の話ですが高階は水の利便がよくありません。それでも何本かの川はあります。

川越と高階の境を流れる「年取らず川（＝不老川）」は東京都瑞穂町の狭山池が源流です。水源はしっかりしてますが、新年を迎えるころには流れが干上がっていわゆる瀬切れを起こし水無川になります。年齢を数える「数え年」は新年を迎えたところで1歳を加えますが、不老川はその時、川として存在しませんから歳をとれません。で「年取らず川」です。数十年前に上流の狭山市の工場や団地の排水路になっていたころは瀬切れはなかったのですが、汚染度全国一の汚名を解消するために整備した結果、流量が減り瀬切れを起こし、また年取らず川になります。

これ以外の川は、大字藤間の中を3本が流れています。川越街道旧道を横切る形で、北から順に紅屋（松本氏）のわきを流れる川、次に新井せんべい店の横を流れる川、最後に川越江川と呼ばれ薬日本堂の横を流れる川の3本です。今これらはすべて暗渠ですが、1番目の川は旧川越街道バイパス寄りには流れが見えます。3本とも暗渠の上に道路ができてますが1・2番目は私有地ではなく河川です。最後の川越江川はすっかり道路であり、藤間側は市道6418号となっています。流れは川越街道バイパスをくぐり、並木通りの右側を暗渠となって流れ、寺尾の五反田（旧寺尾河岸）で新河岸川に流れ込んでいます。

これらは水源が下松原あたりの丘陵末端部で地下水がしみ出たものですから乾季には全く川の様相を呈していません。農業用水としては充分ではなかったでしょう。

但し3本とも川越街道と交差するところには北から一の橋、二の橋、三の橋がかけられていましたから一応またぐ必要のある川だったのは事実です。



さてそんな土地柄でも高階地区には水が豊富なところ

があります。旧川越街道を藤間の高階中あたりから上って東光寺で下る丘陵地（尾根）は、狭山から始まり寺尾の五反田まで続いて末端は新河岸河畔です。字寺尾のこの辺りはもと字名が「埵」でした。読みは「はけ」です。「埵」とは見たことのない文字です。実はこの文字は漢字ではありません。「国字」と言います。日本製漢字と言う人もいます。「埵（はけ）」の義は「水が滞らずに流れる」です。

「埵」は同じ川越領内の現狭山市の堀兼地区で使われていました。草刈街道近くのバス停の名前に「埵下」があります。ここも狭山の丘陵地の末端ですから水が豊富にあったと思われます。

寺尾の「埵」も新河岸川に接するところでは、今でも川端に湧水があります。

「埵」の字を調べた人が狭山市役所に聞いたところ、赤土の断層であるから由来はそこにあるのではないか言う答えだったとか。いいえ違います。それでは字形が水が湧き出る所「はけ」の意味を表していません。仏教行事などで使われる水を「闕伽（アカ）」と言います。サンスクリット語で「Argah」、英語で言うと「Aqua」です。そう、水（アカ）が湧く地形を洒落て「埵」にしたのではないか。自説ですが。

この自説を自慢げに2区の高橋修一さんに話したところ、隣の「赤」は「闕伽水」でしょうと言下に言われてしまいました。私が夜も寝ないで考えたことを言下にいうなんぞ、恐るべし高橋さん。高階の水の話でした。

五ツ又だよりのバックナンバーは五ツ又自治会ホームページの「自治会報」でご覧いただけます。五ツ又自治会ホームページへは <http://www/itutumata.jp/> あるいは「五ツ又」で検索下さい。